

専門家に聞く

園芸ワンポイント

指導
南澤 乙亥
先生

みどりに関する専門相談は
塚山公園みどりの相談所
TEL 03-3302-9387 (毎週土・日曜日)

ペチュニアの育て方

植え付け

ポットから抜き取った時、根鉢に白い根が回っていたらはさみで底を切り込み、新しい根がよく出るようにします。

摘芯

植え付けの時に苗の先端を切り詰めることで、沢山の新芽が吹き、立派な株に育ちます。

病害虫

花から、枯れ葉をこまめに取り除き、風通しを良くしてカビ等による病気を防ぎます。また、葉の表と裏に霧吹きで水をかけハダニの発生を予防するとよいでしょう。

さし芽

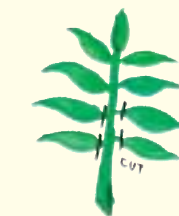
切り取った枝の花芽(蕾)と下葉を取り除き、葉を少なくした枝を30分ほど水上げし、さし芽の用土にさして明るい日陰で管理します。さし穂は発根を良くするために鋭利な刃物(カミソリ等)でクサビ型に切ります。

冬越し

霜の当たらない、暖かな場所で水を控えるにして冬を越せば、春には新芽が吹いてくるので新しい用土に植え替えます。



ペチュニア (和名: ツクバネアサガオ)
ナス科、南米原産。日光と排水の良い土壌を好み寒さにも案外強い。品種、色・形も様々で花壇やハンギング、寄せ植えにもおすすめ。サフィニアは、ペチュニアを高温・多湿に耐えるよう改良したもの。



さし穂

下葉2節を取り、茎の切り口はカミソリ等鋭利な刃物で斜め、又はクサビ型にカットする。



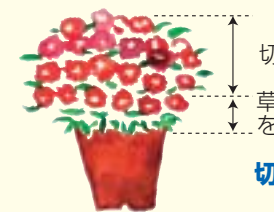
さし床

浅鉢でさし芽の用土にさして水をたっぷり与えて明るい日陰に置く。



花がらつみ

花がらは付け根から取る。枯れ葉をとり除く。



切り戻す

草丈の1/3程を残す

切り戻し

年間の管理

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
開花		冬越		●	●	●	●	●	●	●		冬越
植付				←→								
さし芽				←→								
肥料				←→ 液体肥料								
水やり		控えめ		←→ 用土の表面が乾いたら								控えめ



南澤乙亥 (みなみさわ おとい)

退職された森正先生にかわって、4月からみどりの相談所専門相談員に新しく就任されました。長年、小笠原諸島の固有植物を研究されてきた南澤先生は、東京都みどりの相談所主任相談員、せたがやトラスト協会花とみどりの専門員などを務められました。樹医、牧野植物同好会会員、小笠原野生生物研究会会員。趣味は植物生態写真、合気道だそうです。

編集後記 「みどりひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

- 南澤先生の小笠原原種のお話はとても興味深いものでした。(相)
- 身近な木や花のことをもっとよく知り、もっと大切にしたいと思っています。(朋)
- 多様な野草が一齐に開花する初夏。昨年出会った花々たちと今年もまた出会えた感激は、まさに同窓会の雰囲気ですね。(羽)
- 先日のみどりのイベントでの人出の多かった事にびっくり!(淳)
- 梅雨の季節です。アジサイやハナショウブがとても似合っています。144号より新しいお仲間が入り、編集会議も一段と楽しくなりました。(山)

みどりの新聞 みどりひと144号 平成20年6月21日発行

編集/みどりのボランティア
編集・発行/杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 03-3312-2111
「みどりひと」は区ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.city.suginami.tokyo.jp/>



大豆インク使用。ケナフ100%紙使用。

連載 すきなみ きになる木

阿佐ヶ谷駅前の大木 メタセコイア

JR阿佐ヶ谷駅南口のみどり豊かな広場は、駅前の憩いのスポットとして親しまれています。電車のホームや車窓からもよく見えるのでご存知の方も多いでしょう。噴水のある小さな池を中心にヒマラヤスギ、メタセコイア(和名:アケボノスギ)が頭上にゆったりと枝を伸ばし、その木陰のベンチでは人々が季節の花やみどりを楽しみながらゆとりと時間を過ごしている。いつもこのような穏やかな風景がひろがっ

ています。
今回の主人公は、この広場にヒマラヤスギと並んで仲良く立っている五本のメタセコイアです。昭和五十二年、区の木であるサザンカとメタセコイアを阿佐ヶ谷駅南口広場に植樹し、昭和五十六年の駅前の整備を経て今日に至ります。この間大きく育ったメタセコイアは、駅のシンボリックな存在とな



メタセコイアはスギ科の落葉樹で、先に化石が発見されたため絶滅種と考えられていましたが、その後昭和二十年(一九四五年)中国で現存が確認され「生きていた化石」と話題になりました。生長すると三十メートル以上の大木になるといわれています。葉は柔らかく繊細で、芽吹きの時、夏の深緑、オレンジ色の鮮やかな紅葉、葉を落とした後の円錐形の樹形のおもしろさなど、四季を通じて楽しめるのが嬉しい季節です。木陰をわたる風が嬉しい季節です。ちょっと足をとめてみませんか。

遊びを通してみどりに親しむ

—みどりのイベント2008—

竹のポックリ、シュロの葉のバッタ、植物の育て方講座など、みどりに触れてみどりに親しむ—そんなイベントが5月17日（土）、柏の宮公園で開催されました。

本イベントには、地域の緑化活動に取り組むボランティア団体、区内の造園業者有志、浜田山町会・浜田山商店連合会、杉並区（みどり公園課）による15の企画が出演。ターザンロープで「ほら、もっと大きな声だしていいんだよ！」と背中を押されて「Yahoo!!」と声をあげる子ども、熱心に展示物について質問する人、のんびりと公園にシートを敷いて過ごす家族連れなど、約3000人の方がご来場くださいました。



帰化植物観察会



シュロで作ったカエル



ザリガニ釣り



ターザンロープ



イベント風景



木のペンダント製作



落ち葉感謝祭展示



竹ポックリ製作



植物の育て方講座

緑の歳時記

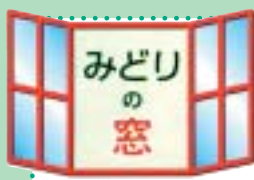
杉並区内でよく見かける帰化植物

アメリカフウロ (亜米利加風露) フウロソウ科

北アメリカ原産の越年生草本

太平洋諸島やアジアに帰化しています。全体に白い軟毛があり、茎は基部からよく枝分かれして高さ40cmほどになります。葉は円形ですが、5つに深く切れこみ、さらに細い切れ込みがあります。花は葉のわきから花柄（かへい）を出し、直径5mmほどの淡紅色の5花弁をつけます。花期は5～6月で、秋には約2cmの角果が5つにわかれてタネが弾け落ちます。

1933年に京都ではじめて帰化が報告され、現在では東北地方以南に多く発生するようになりました。杉並区内では、新しく造成された植樹帯や植え込みと、善福寺川沿いの道ばたや、柏の宮公園でも見ることができます。ちなみに同じフウロソウ科のゲンノショウコ（現の証拠）は日本薬局方にも載せられている、腹痛をはじめ様々な薬効のある昔からの植物です。帰化植物のアメリカフウロが繁茂する中、在来種のゲンノショウコもがんばっていると思いませんか？



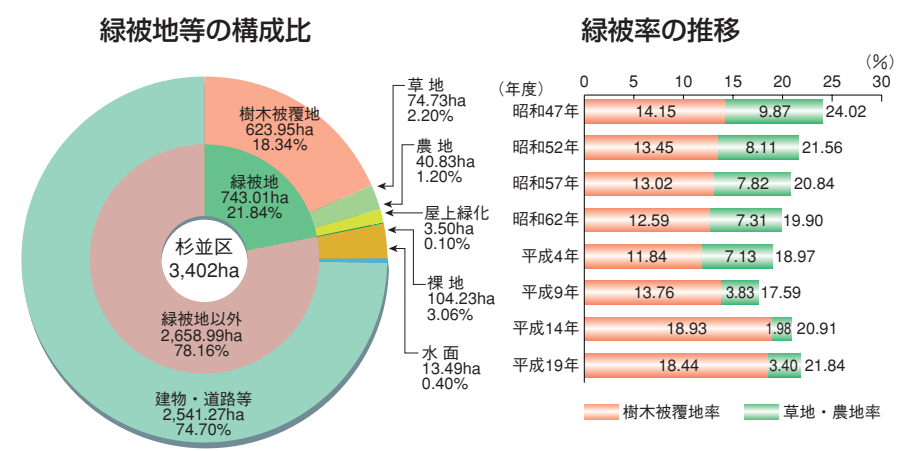
杉並のみどりはどうなってるの？

—杉並区みどりの実態調査報告 その1—

緑被率は21.84%

みどりの実態調査は、区内のみどりの実態を把握するため、昭和47年より5年ごとに実施しています。調査は、緑被率調査、樹木調査、樹林調査など10以上の内容です。

今回は、緑被率についてお知らせします。緑被率とは、上空から見て草や木などのみどりに覆われている部分の割合です。区全域（3,402ha）でみどりに覆われている面積は743.01haでした。これは区の面積の21.84%＝緑被率になります。樹木の生長や調査方法の進歩により緑被率は増加したと考えられます。緑被地の内訳を見ると樹木で覆われた土地は減少しています。



みどり探訪

—地域と共に守り、育てる貴重木—
貴重木とは、杉並区みどりの条例に基づき指定されている保護樹木のうち、特に大切に残そうとしている樹木です。

和泉熊野神社のクロマツとモッコク

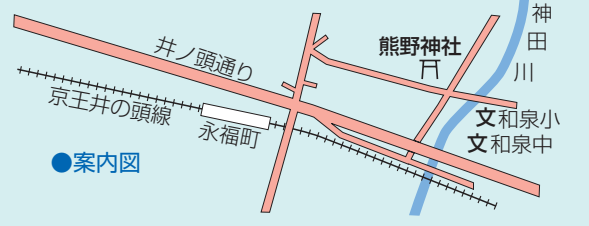
永福町駅から北東へ約500m、神田川沿いの閑静な住宅地に、「和泉の鎮守さま」として親しまれている和泉熊野神社があります。文永4年（1267年）創建という古いお宮だけに、境内にはクロマツ、イヌシデ、シラカシ、ケヤキなどの古木・大木が生い茂っていますが、実はここには、区指定の「貴重木」が2本もあります。

一本は区の天然記念物にも指定されているクロマツ（黒松、マツ科）で、社殿左側にひときわ高くそびえています。目通り幹周3.1m、根元周囲6.3m、樹高17m、樹齢は350年以上と推定されています。徳川家光お手植えとの伝承があり、ご神木として手厚く保護されてきました。都内では年々減少しているクロマツの中では、有数の巨樹だそうです。もう一本は、社殿手前右側にあるモッコク（木斛、ツバキ科）です。モッコクは庭木として親しまれていますが、成長がゆっくりなため都会ではあまり大きなものは見られません。しかし、ここではゆうに10mを超える高さを誇り、毎年可憐な花をたくさん咲かせるそうです。

こんもりとした鎮守の森。そのみどりは、地域の人々の憩いの場ともなっています。それだけに、「このみどりを守り育てるために、ぜひとも地域の人々の暖かい支援を」と五十嵐宮司は話されていました。和泉熊野神社の貴重木は、区民共有の財産として、みんなで守り育てる大切さを改めて教えてください。



上:モッコク
左:クロマツ



●案内図